

市民参加型モニタリング調査について(現状整理)

1 市民参加型モニタリング調査を実施する背景

平成29年3月に策定した生物多様性ふなばし戦略における重点的な取組①として「指標種を用いたモニタリングの実施」を定めた。また、令和4年3月に改定した生物多様性ふなばし戦略においても、リーディングプロジェクト(特に重点的に進めていく施策・取組)として「船橋の自然の情報を集めよう！見える化しよう！」プロジェクトの中で、「指標種を用いたモニタリングの実施」を定めている。

2 市民参加型モニタリング調査を実施する目的

市民参加型モニタリング調査は、地域の自然環境の指標となる生き物の生息環境の変化を知ること及び、自然環境保全思想の醸成を図ることを目的として実施している。

3 過去の実績

(1)令和2年度

- ① 対 象 種 セミのぬけがら
- ② 調査期間 令和2年7月15日から令和2年9月30日
- ③ 報告方法 メール、FAX、郵送、持参
- ④ 報告件数 30件

(2)令和3年度

- ① 対 象 種 セミのぬけがら
- ② 調査期間 令和3年7月15日から令和3年9月30日
- ③ 報告方法 メール、FAX、郵送、持参
- ④ 報告件数 30件

(3)令和4年度

- ① 対 象 種 セミのぬけがら、ヤマユリ、コゲラ、アカミミガメ
- ② 調査期間 令和4年7月15日から令和4年9月30日
- ③ 報告方法 メール、FAX、郵送、持参
- ④ 報告件数 36 件

(4)令和5年度

- ① 対 象 種
 - <指標種> セミの成虫及びぬけがら、カントウタンポポ、ヤマユリ、ススキ、ホトケノザ、ツバメ、コゲラ、モズ、ミヤコドリ、オオキンケイギク、アカミミガメ、アライグマ、ニホンアカガエル、アキアカネ、オオカマキリの卵
 - <その他の種> (家庭内で育てられた動植物は除く)
- ② 調査期間 令和5年4月1日から令和 6 年1月31 日
(キャンペーン期間:令和5年7月1日から令和5年10月31日)

③ 報告方法 オンライン申請、メール、FAX、郵送、持参

④ 報告件数 <指標種>123件、<その他>75件

※キャンペーン概要:期間中に報告した全員に記念品、抽選で5名に景品をプレゼント

(5)令和6年度

① 対象種

<指標種>セミの成虫及びぬけがら、カントウタンポポ、ヤマユリ、ススキ、ホトケノザ、ツバメ、コゲラ、モズ、ミヤコドリ、オオキンケイギク、アカミミガメ、アライグマ、ニホンアカガエル、アキアカネ、オオカマキリの卵

<その他の種>(家庭内で育てられた動植物は除く)

② 調査期間 令和6年4月1日から令和7年1月31日

(キャンペーン期間:令和6年7月1日から令和6年10月31日)

③ 報告方法 オンライン申請、メール、FAX、郵送、持参

④ 報告件数 <指標種>128件、<その他>150件

(6)自然環境調査 市民調査(中間報告)

① 対象種

<指標種>冬季:12種、春季:24種

<その他の種>(家庭内で育てられた動植物は除く)

② 調査期間 冬季:令和7年1月11日から令和7年2月11日

春季:令和7年3月20日から令和7年5月20日

③ 報告方法 **Biome**、紙報告(メール、FAX、郵送、持参)

④ Biome による報告件数 冬季:<指標種>180件、<その他> 997件

春季:<指標種>309件、<その他>3,604件

合計(冬+春):<指標種>489件、<その他>4,601件

※指標種については、生きもの探しハンドブックを作成し、周知を行っている。

<https://www.city.funabashi.lg.jp/machi/kankyou/010/p082326.html>



※各年度の実施報告書は、市ホームページにて公開している。

<https://www.city.funabashi.lg.jp/machi/kankyou/010/p086359.html>



※「ふなばし生き生きふれあいマップ」内の「生きものマップ」にて、令和4年度以降の調査結果を船橋市の地図上に表示している。

<https://funabashi.maps.arcgis.com/apps/webappviewer/index.html?id=4108ed9d22484b7fa6c9167038ada06f>



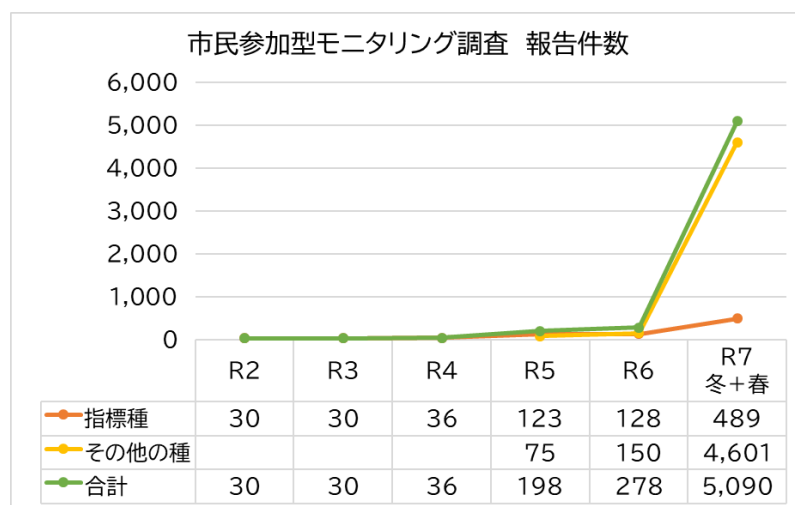
4 従来の方法によるモニタリング調査の課題点

市民参加型モニタリング調査の目的を達成するための課題点について整理した。

(目的1)地域の自然環境の指標となる生き物の生息環境の変化を知ること

<課題点>

- ① 指標種の報告件数をいかにして増やすか
- ② 探しやすかつ目的を達成する指標種であるか
- ③ 指標種のデータを基に、具体的に何を分析・考察するかが不明瞭



※R7 は Biome による報告件数



生物多様性ふなばし戦略改訂版 P75

(目的2)自然環境保全思想の醸成を図ること

<課題点>

- ① だれでも参加(報告)がしやすい方法であるか
- ② 生きものに興味がない人でも身近な自然で、生きものを探そうと思える方法であるか
- ③ 目的を達成していることを図れる方法であるか
 - ・定性的……アンケート調査
 - ・定量的……報告件数もしくは参加者数
- ④ 指標種に限らず、様々な生きものや自然に興味を持つように仕向ける方法であるか

5 Biome と従来方法の利点

● Biome の利点

- ・参加の敷居が低い(AI で同定してくれるので、知らない生き物もすぐにわかる)
- ・多くのデータを収集しやすい。
- ・データの位置情報が正確である。
- ・データ処理労力が少ない。

● 従来方法の利点

- ・スマートフォンが利用できない人も参加できる。
- ・スマートフォンでの撮影が難しい種の観察に向いている(鳥類など)。